

九州ルーテル学院大学

Teaching Portfolio

2026



所 属：人文学部人文学科児童教育専攻

名 前：坂 本 昌 弥

作成日：2025年5月20日

九州ルーテル学院大学 ティーチング・ポートフォリオ

教員氏名：坂本昌弥

所 属：人文学部人文学科児童教育専攻

1. はじめに

九州ルーテル学院大学（以下、KLC）は、『感恩奉仕』を基礎に全人格を磨く教育を目指している。この教育方針により KLC で学修する学生は、常に自己を研鑽し続ける能力、すなわち能動的な学習を継続できる能力を求められる。

高校までの学習は、定められた内容を詰め込み式に身につける受動的なものである場合が多い。これは単に大学受験を乗り越えるための学習であるためである。それゆえそこで得られた知識の多くは、大学受験終了とともに忘れ去られる。

しかし本来、学びは『自らの興味を探究するために、自ら学び、自ら考える』といった能動的な活動である。学生が、高校から大学へ進学するにあたって求められるこのパラダイムシフトともいえる大きな転換を成し遂げるためには、多様なトレーニングを経験する必要がある。そしてこれは将来教師になろうと考えている学生にとっては、『学修の意義』を考える大きなきっかけにもなる。

近年、大学教育には、この転換がうまくなされるように「寄り添う」ことが求められている。教育的愛情を持って、繰り返し能動的に学習するきっかけを教員は学生に与え、そこで得られる成功体験から学生は自己肯定感を獲得する。

このような「場」をあらゆる教育の場面において学生へ提供していきたい。

2. 教育の責任

【責任の所在】

本学は、人文学部人文学科及び心理臨床学科の1学部2学科構成の大学である。その中で理科や科学、地域に関する教育を受け持っている。その役割について以下に示す。

【共通教育科目】

「生活と自然科学」「熊本地域活動学」「熊本地域活動学サービスラーニング」「熊本地域活動学サービスラーニングサポート」を担当する。「生活と自然科学」では、社会や地域を構成する住民として必要な自然科学や地域に係る教養教育をおこなう。そして飛躍的な進歩を遂げている科学技術の必要性や生命科学の倫理的問題点等を適宜取り上げ、健全な市民に求められるクリティカル・シンキング育成に努める。また「熊本地域活動学」等では、地域における課題や施策を具体的に理解し、解決策を提案できる人材育成のための教育を受け持っている。

【専門科目】

2年次生からの小学校教員養成に係る専門科目(理科, 理科教育法)を担当している。担当科目は, 理科教育を基礎とした教職関連科目がほとんどであり, 学生が数学や自然科学の基礎学力が不足している場合, 容易には理解できない内容を含んでいると思われるため, そうした内容理解のためのフォローアップも同時に行うこととしている。また将来, 小学校等で理科教育を行う教師に必要とされる, 科学的思考力の育成や「理科好き」を作る高い授業実践スキル育成を目指した授業を展開することを教育の責任としている。加えて4年次生には「教職実践演習(分担)」を受け持っている。学校現場に出る直前の学生に対し, 実践的な学修内容を提供し, 教員となった際のスキル向上を目指している。

【卒業研究・特別研究】

多様な考え方や価値観が存在する現代社会に生きる市民には, 問題解決能力だけでなく, 問題発見能力が必要である。ここでは少人数による教育を実施し, 徹底した演習による問題発見能力, 問題解決能力の育成に注力する。

以下, 担当する科目を列挙する。各科目の内容については, 各科目のシラバスにて示している。

2.1. 授業科目の担当

2025年は以下の科目を担当する。

科目名	開講年度時期	履修者数	備考
生活と自然科学	2025～ 前期	約 200	共通教育
熊本地域活動学	2025～ 前期	約 20	共通教育
熊本地域活動学 SL	2025～ 後期	約 10	共通教育
熊本地域活動学 SLS	2025～ 前期	約 10	共通教育
小学校教育実習 I	2025～ 前期	約 50	専門教育
小学校教育実習 II	2025～ 後期	約 50	専門教育
理科	2025～ 前期	約 50	専門教育
理科教育法	2025～ 後期	約 500	専門教育
卒業研究	2025～ 通年	約 10	専門教育
特別研究	2025～ 後期	約 10	専門教育
教職実践演習	2025～ 後期	約 50	専門教育

■ 主要担当科目

【理科教育法】

○ 小学校理科教育に必要な学習指導要領の解説, 理科教育に係る法規, 学習内容理解, 指導法, 実験法, ICT 活用法, 事故防止等に係る授業である。

【理科】

○小学校理科教育に必要な実験・観察の指導法理解，特に化学分野の実験・実習の実施，植物観察や分類，また ICT 活用法等に係る授業である。

【生活と自然科学】

○1年次生全員必修の授業である。自然科学を学修する必要性と，特に環境問題等を考える際に必要な地球理解を教育目標とし，科学の本質的理解を目指す授業である。

■ 非常勤講師

【熊本大学理学部】

○「教職実践演習」「中等理科教育法Ⅲ」「中等理科教育法Ⅳ」を担当

【出前授業】

○熊本地震を教材とした防災教育

2.2. 教育組織運営

教育実施に際して学内では以下の分掌を受け持つ。

- ・副学長（入試担当）
- ・入試委員会（委員長）
- ・教職・保育支援センター運営委員会（委員長）
- ・教職・保育支援センター長
- ・4年次生アドバイザー

3. 教育の理念

義務教育から高等学校教育まで「偏差値」が重視されるようになって久しいが、「教育」という行為は、「偏差値」を高めることを目標としていない。個々の学生が，授業を通して将来やその在り方への関心を深め，その能力・適性・性格等の発見と伸長に努め，大学卒業後の進路の計画・選択をし，社会的・職業的自己実現を達成していくことに必要な自己指導の能力や態度を伸長するような教育を目指している。これはまさにキャリア教育であり，これを実践的におこなうことを大切にして教育を実施している。以下，具体的に学生に身につけさせたい能力を列記する。

3.1. 理念1

【人間関係形成能力の育成】

○他者の個性を尊重し，自己の個性を發揮しながら，様々な人とコミュニケーションを図り，協力・共同して物事に取り組む力の育成

3.2. 理念2

【情報活用能力の育成】

○学ぶこと・働くことの意義や役割及びその多様性を理解し，幅広く 情報を活用して，

自己の進路や生き方の選択に生かす力の育成

3.3. 理念3

【将来設計能力の育成】

- 夢や希望を持って将来の生き方や生活を考え、社会の現実を踏まえながら、前向きに自己の将来を設計する力の育成

3.4. 理念4

【意思決定能力の育成】

- 自らの意思と責任でよりよい選択・決定を行うとともに、その過程での課題や葛藤に積極的に取り組み克服する力の育成

3.5. 理念5

【批判的思考の育成】

- あらゆる物事の問題を特定して、適切に分析することによって最適解にたどり着くための思考の育成

4. 教育の方法

以下の点について留意しつつ教育を実践している。

- ①「何ができるようになるか（資質・能力の育成）」
- ②「何を学ぶか（学生へ提供する教育内容の充実）」
- ③「どのように学ぶか（授業における学習・指導の改善・充実）」
- ④「学生ひとり一人の発達をどのように支援するか」
- ⑤「何が身に付いたか（満足感と充足感の獲得）」
- ⑥「実施するために何が必要か（目標の設定と事前準備の改善）」

これは、学習指導要領でも注目されている「学びの地図」に近い考えであるが、

5. 教育改善のための努力

教育改善のために以下の点に留意している。

- ①「対話（授業に対する感想等の聞取り）」
- ②「アンケート調査（授業方法に関する聞取り）」
- ③「調査・研究（先行授業からの学び）」
- ④「学生の意識調査（何が学びたいのか、学んでどうするのか）」

5.1. 改善努力1 授業評価アンケートと授業改善報告書

【学修内容の明確化】

- 授業内容について明確に説明し、事前学習及び事後学修がしやすいような学修指導の実施。また最先端のトピックスを取り入れ、学修の意義を強調していきたい。

5.2. 改善努力2

【学修する意義の明確化】

- 最先端の知見・ニュースを取り入れ，学修意義の明確化を図る。

6. 教育の成果・評価

【ICT 教育】

- プログラミング教育の学修については，学生から肯定的な意見が多い。

【実験・実習】

- 体験的な授業である実験・実習プログラムについては，学生から肯定的な意見が多い。

【最先端科学ニュースの紹介】

- 科学に対する興味関心を引き立てるために行っているニュース紹介については，学生から肯定的な意見が多い。

7. 今後の教育に関する課題と目標

【e-ラーニングの充実】

- Moodle を活用したコンテンツの充実を図る。

【地域との連携】

- 地域の人的資源を活用し，教育に役立つ人材による授業の充実を図る。

8. 参考資料

(1) 担当科目シラバス (別添)

(2) 授業評価アンケート結果 (別添)